

[特集] 「信じたい」という心理——心の病から陰謀論まで

1 序:信じること

信じることの心理	石垣琢磨	653
ラポール再考——心理療法における信頼の契機とは	出崎 躍	658
基本的信頼とその欠損	工藤由佳	663

2 〈信じてしまった人たち〉——心理社会的考察

自己啓発書を読むことの多義性	牧野智和	668
何でもセラピー——「スピリチュアル」/ニューエイジの功罪	柳澤田実	673

3 〈信じたい心〉は暗躍する——社会性と匿名性

正しさに依存するところ——カルト	櫻井義秀	678
「私は騙されない」——特殊詐欺	西田公昭	683
分断を深める信念——陰謀論	大藺博記	688

4 〈信じたい心〉は暴走する——対人性と加害性

「これはしつけど」——DV・虐待被害者の心理	中野葉子	695
ひとりよがりの信じる心——ストーカー被害者の心理	小畑千晴	701
「私はまちがっていない」——ハラスメント被害者の心理	津野香奈美	706

5 〈信じたい心〉は失踪/疾走する——病理から回復へ

信じることの病理の複雑さとあいまいさについて——支配観念	石垣琢磨	714
「私は絶対に太っている」——神経性やせ症	竹田 剛	719
「わたしは特別……」——自己愛性パーソナリティ障害	斎藤 環	723
「こだわり」の価値	青木省三	728

投 稿

原著論文 子育てにおける親の認知的怒り制御方略と
精神的健康との関連 高堰仁美 735

展望・レビュー論文

英国を中心とした欧州諸国の保育現場にお
ける精神分析的視点の応用に関する研究動
向——我が国の保育臨床への活用の手がか
りとして 西野将史 748

リレー連載

臨床心理学・最新研究レポート シーズン3

第49回「哲学的健康——パーソン・センタードな対話
法による患者・クライアントの個人的哲学の顕在化」

藤井翔太 761

書 評 768

- ジュディス・L・ハーマン 著『真実と修復——暴力被害者にと
つての謝罪・補償・再発防止策』(評者:亀岡智美)
- クリストファー・ボラス、デイヴィッド・サンデルソン 著『ここ
の秘密が脅かされるとき——心理臨床における守秘義務と
倫理の問題』(評者:山崎孝明)
- 津川律子・遠藤裕乃 編『まちにとけこむ公認心理師——ひ
ろがる心理支援のかたち』(評者:山口剛史)
- 鈴木大介・山口加代子 著『不自由な脳は続く——高次脳機
能障害に対する支援再考』(評者:福田由利)
- スティーブン・ハップほか 著『本当は間違っている 育児と子
どもの発達にまつわる50の迷信』(評者:篠原郁子)

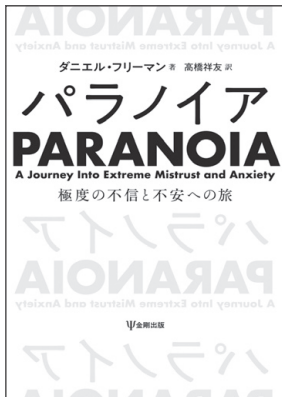
次号予告 733 / 実践研究論文の投稿のお誘い 759 / 総目次 773
/ 投稿規定 779 / 編集後記 780

環太平洋精神科医会議(第21回総会) / 世界文化精神医学会(第
7回総会)合同開催会議 694

新刊案内

Ψ 金剛出版

〒112-0005 東京都文京区水道1-5-16 Tel. 03-3815-6661 Fax. 03-3818-6848
e-mail eigyo@kongoshuppan.co.jp URL <http://kongoshuppan.co.jp/>

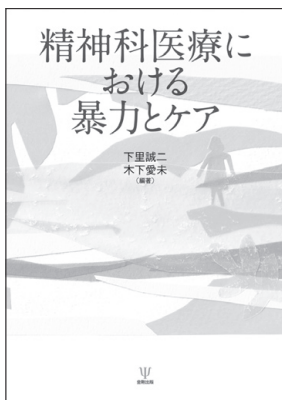


パラノイア

極度の不信と不安への旅

[著] ダニエル・フリーマン [訳] 高橋祥友

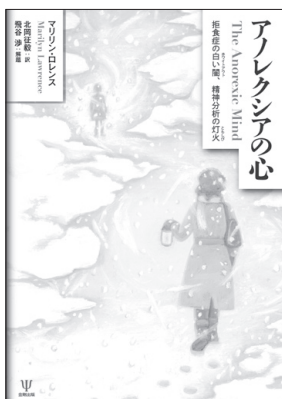
パラノイア、陰謀論、信頼の危機が現代社会を蝕んでいる。パラノイアとは何か？ 不安の原因は何か？ その背後には複雑な感情が存在する。遺伝子、トラウマ、不眠、心配、自尊心の低さ、大麻の使用、幻聴等に基づいて、不気味な新型コロナウイルス陰謀論をはじめとする陰謀論に代表されるように極度の不信感が世界中に広がっている。本書は実用的な本でもあり、私たち自身の不信感をどのように自覚するかをパラノイアに関する指導的な心理学者である著者ダニエル・フリーマンは自ら開発した「安心感プログラム (Feeling Safe Programme)」を元に指し示す。 定価3,520円



精神科医療における暴力とケア

[編著] 下里誠二 木下愛未

精神科で起こる暴力とは何だろう。その暴力をケアするとは何だろう。本書は、その暴力が渦巻いている中に身を置いている方、外から暴力を考える方、精神科とは直接の関係のない哲学の世界から暴力を考える方、当事者、その家族……などさまざまな立場の方からのご論考を集めている。「暴力」とは何だろう。ただ、その行為だけを見ているだけでは何も変わらない。それを取り巻く精神医療、社会全体、人間存在そのもの、といった根源的な問題からの考察が必要不可欠である。その上で、さらに「ケア」とは何か。何がケアにつながるのか、本書を通して読者一人ひとりに考え続けていただきたいと願う。 定価3,740円



アノレクシアの心

ホワイトアウト 拒食症の白い闇、精神分析の灯火

[著] マリリン・ロレンス [訳] 北岡征毅 [解題] 飛谷 渉

本書の考えは二つの別個の専門的な実践領域を通じて発展した。一つ目の領域は、著者マリリン・ロレンス自身の精神分析家としての直接的な臨床作業である。二つ目の領域は、摂食障害の患者を援助する専門部門を運営するスタッフに向けた学習資料を提供する活動である。本書の視点は精神分析的なものである。しかし本書は精神分析家に向けてだけ書かれたものではない。専門家が自分たちの患者の病気の意味を知るのに役立つ取り組みは、心の健康に従事する多様な背景を持つ読者の一助になる。 定価3,740円

価格は10%税込です。